

平成20年度秋冬作野菜花き関係 除草剤・生育調節剤試験判定内容

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成20年度秋冬作野菜花き関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成21年7月16日(木)にホテル サンチェリーにおいて開催された。

この検討会には、試験場関係者39名、委託関係者21名ほか、計73名の参集を得て、秋冬作除草剤17薬剤(55点)、

春夏作除草剤11薬剤(29点)、秋冬作生育調節剤6薬剤(16点)、春夏作生育調節剤3薬剤(10点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成20年度 秋冬作野菜花き関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

A. 野菜関係除草剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種類・継 の別	試験担当場所 (数)	試験設計 [対象雑草;ねらい] ・処理時期 ・薬量g・mL<水量L>/10a ・処理方法	判定	判定内容
1. AKD-7164水和 シアンソン 50% [アグロネーション]	サトウ	作用性 新規	植調研究所 鳥取園試弓浜砂丘 (2)	[一年生雑草(ツメクサ除く)] ・定植後 雑草発生始期 ・75, 100, 150g<100> ・土壌処理	継	継) ・効果、薬害の確認
2. ALH-0731乳 プロビソクロール 72%(w/v) [アリスト ライフサイエンス]	タマネギ	適用性 新規	植調研究所 和歌山農試 佐賀白石 (3)	[一年生雑草] ①定植活着後 雑草発生前 ②定植活着後 雑草発生揃期 ・200, 300mL<100> ・土壌処理 対)コメコメサン乳 400mL<100>	継	継) ・効果、薬害の確認
3. ALZ-0642液 ヨウ化メチル 19.5%、 クロルピクリン 79.5% [アリスト ライフサイエンス]	ホレンソウ	適用性 継続	植調研究所 南九州大学 植調鹿兒島大隅 (3)	[一年生雑草] ・播種前 雑草発生前 ・10L (1.0mL/穴) 15L (1.5mL/穴) 20L (2.0mL/穴) ・土壌くん蒸処理 (点注処理) 対)クロルピクリン液30L (3.0mL/穴) 処理方法) 7日間くん蒸後、被覆を除去し、 7日後を目安に耕起、さらにその 後3日以上放置し定植する。	実 ・ 継	実) [秋冬作;一年生雑草] ・播種前 雑草発生前 ・15~20L/10a (1.5~2mL/穴) ・土壌くん蒸処理 (点注処理) 処理方法) ・7日間くん蒸後、被覆を除去し、 7日後を目安に耕起、さらにそ の後3日以上放置し定植する。 注) ・過湿条件での使用は避ける 継) ・10L/10a処理での効果の確認

A. 野菜関係除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
4. ANK-553 (改) 乳 ベンディメタリン 30% [BASFアグロ]	タマネギ (秋播)	適用性 継続	植調研究所 佐賀白石 <長崎総農試> (3)	[一年生雑草(キ科、ツクサを除く)] ・ 定植前(マルチ前) 雑草発生前 ・ 300mL<70, 150> 500mL<70> ・ 土壌処理 対) 慣行	継	継) ・ 効果、薬害の確認
	ラッキョウ	適用性 継続	植調研究所 宮崎畑園 植調鹿児島大隅 沖縄農研セ (4)	[一年生雑草(キ科、ツクサを除く)] ・ 植付後～萌芽前 雑草発生前 ・ 300mL<70, 150> 500mL<70> ・ 土壌処理 対) 慣行	実	実) [一年生雑草(キ科、ツクサを除く)] ・ 植付後、萌芽前 雑草発生前 ・ 300～500mL<70～150L>/10a ・ 土壌処理
5. BAH-0805乳 ジメナミトP 21.25%、ベン ディメタリン 25%(w/v) [BASFアグロ]	タマネギ	適用性 新規	植調青森 愛知農総試 佐賀白石 沖縄農研セ (4)	[一年生雑草] ・ 定植後 雑草発生前 ・ 200, 300, 400mL<100> ・ 土壌処理 対) 慣行	継	継) ・ 効果、薬害の確認
6. BAS-656乳 ジメナミトP 64% [BASFアグロ]	タマネギ	適用性 継続	植調青森 愛知農総試 香川農試 鹿児島大隅 (4)	[一年生雑草(タデ科、アカザ科、アブラ ナ科を除く)] ・ 定植後 雑草発生前 ・ 75, 100, 120mL<100> ・ 土壌処理 対) 慣行	実	実) [秋冬作、露地; 一年生雑草(タデ 科、アカザ科、アブラナ科を除く)] ・ 定植後 雑草発生前 ・ 75～120mL<100L>/10a ・ 全面土壌処理
7. BCY-069くん蒸 メチルイソシアネート 30% [ハニエル クロップサイエ ンス]	ホウレンソウ	適用性 継続	福岡豊前 (1)	[一年生雑草] ・ 定植前 雑草発生前 ①被覆資材除去1日後に播種 ②被覆資材除去7日後に播種 ・ 26.6, 40.0kg ・ 土壌くん蒸処理 処理方法) 被覆材下にスプレーを挿入(空間確 保)→処理区短辺一方からノズルを 挿入し薬剤を噴出	継	継) ・ 効果、薬害の確認

A. 野菜関係除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
8. NC-622液 グリホサートカリウム塩 48% [日産化学工業]	キュウリ	適用性 新規	南九州大学 (1)	[一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 200mL<25, 100> 500mL<25> ・ 畦間茎葉処理 ・ 展着剤不要	継	継) ・ 効果、薬害の確認
	ナス	適用性 新規	<宮崎総農試> (1)	[一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 200mL<25, 100> 500mL<25> ・ 畦間茎葉処理 ・ 展着剤不要	保 留	—
	ピーマン	適用性 新規	宮崎総農試 沖縄農研 (2)	[一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 200mL<25, 100> 500mL<25> ・ 畦間茎葉処理 ・ 展着剤不要	継	継) ・ 効果、薬害の確認
	ダイコン	適用性 新規	栃木農試 三重農研 (2)	[一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 200mL<25, 100> 500mL<25> ・ 畦間茎葉処理 ・ 展着剤不要	継	継) ・ 効果、薬害の確認
9. TMZ-9911液 メチル 99% [アリス ライフサイエンス]	タマネギ (育苗床)	適用性 継続	植調研究所 和歌山農試 佐賀白石 (3)	[一年生雑草] ・ 定植前 雑草発生前 ・ 10, 15, 20kg ・ 土壌くん蒸処理 対)バスマット微粒 20kg 処理方法) 被覆資材下に設置→くん蒸処理 (密閉し3日間放置)→被覆除去→ 7日後を目安に耕起(3日間放置) →播種	実 ・ 継	実) [秋冬作(タネ育苗床)、露地; 一 年生雑草] ・ 植付前 雑草発生前 ・ 15~20kg/10a ・ 土壌くん蒸処理 注) ・ 薬剤容器を被覆資材下に設置 し、くん蒸処理後3日間密閉、放 置する。処理4日後に被覆除去 し、処理後7日を目安に耕起す る。耕起4日以後に植付ける。 継) ・ 10kg/10a処理での効果の確認
	サトウ (直播)	適用性 新規	植調研究所 (1)	[一年生雑草] ・ 定植前 雑草発生前 ・ 10, 15, 20kg ・ 土壌くん蒸処理 対)バスマット微粒 20kg 処理方法) 被覆資材下に設置→くん蒸処理 (密閉し3日間放置)→被覆除去→ 7日後を目安に耕起(3日間放置) →播種	継	継) ・ 効果、薬害の確認
	ゴボウ	適用性 新規	植調研究所 岡山農試 宮崎畑園 (3)	[一年生雑草] ・ 定植前 雑草発生前 ・ 10, 15, 20kg ・ 土壌くん蒸処理 対)クローリン 30L(3mL/穴) 処理方法) 被覆資材下に設置→くん蒸処理 (密閉し3日間放置)→被覆除去→ 7日後を目安に耕起(3日間放置) →播種	継	継) ・ 効果、薬害の確認

A. 野菜関係除草剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
10. ZK-122液 ク・リホサートカリウム塩 44.7% [シンジエンタ ジャパン]	サトウ	薬害 継続	奈良農総 鳥取園試弓浜砂丘 福岡農総試 (3) 三重植防 (H19分) (1)	[薬害試験] ・ 定植直前、7 日前 500, 1000mL<25> ・ 定植3日前 500mL<25> ・ 全面茎葉処理 ・ 展着剤不要	実・ 継 (従 来 ど お り)	実) [秋冬作; 一年生雑草] ・ 耕起14日以前 雑草生育期(草丈30cm以下) ・ 全面茎葉処理 ・ 250~500mL<25~50L>/10a (専用ノズル使用) 継) ・ 定植前処理での薬害の発生要因 について ・ 耕起直前処理での薬害の確認 ・ 水量100L/10aでの効果、薬害の 確認
11. プ・ロビ・サ・ミト水和 ブ・ロビ・サ・ミト 50% [カウ・ケミカル日本]	レタス	適用性 新規 (秋冬 作とし て)	和歌山暖地園 福岡農総試 (2)	[一年生雑草(キ科、カヤツリクサ科除 く)] ・ 定植後 雑草発生前 ・ 200, 300g<100> ・ 土壌処理	継	継) ・ 効果、薬害の確認
12. リニロン水和 リニロン 50% [テ・ポ・ン]	ニンニク	薬害 新規	青森農総<中間> 青森畑園試<中間> (2)	[薬害試験] ・ 植付後マルチ前 ①処理当日マルチング ②処理2~3日後マルチング ・ 150, 300g<70> ・ 土壌処理 対) 一任	実・ 継 (実 の 内 容 は 従 来 ど お り)	実) [露地マルチ; 一年生雑草] ・ 植付前マルチ前 雑草発生前 ・ 全面土壌処理 ・ 100~150g<100L>/10a 継) ・ 植付後マルチ前処理での効果、薬害 の確認
13. ALH-0831乳 (旧S-604) クレトシム 23% [アリスラ ライフサイエンス]	キャベツ	適用性 新規	植調研究所 福岡農総試 (2)	[一年生イネ科雑草] ・ 生育期 雑草生育期(イネ科雑草 3~5葉期) ・ 50, 75mL<100> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ナブ乳 150mL<100>	継	継) ・ 効果、薬害の確認
	ダイコン	適用性 新規	植調研究所 <宮崎畑園> (2)	[一年生イネ科雑草] ・ 生育期 雑草生育期(イネ科雑草 3~5葉期) ・ 50, 75mL<100> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ナブ乳 150mL<100>	継	継) ・ 効果、薬害の確認

A. 野菜関係除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
14. ANK-553乳 ベンディメタリン 30% [BASFアグロ]	ニンニク	薬害 新規 (自主)	青森畑園試<中間> (1)	[薬害試験] ・ 植付後マルチ前 ①処理当日マルチング ②処理2〜3日後マルチング ・ 500, 1000mL<100> ・ 土壌処理 対) 一任	実・ 継 (実の内容は従来どおり)	実) [露地;一年生雑草(キ科、ワヅカサを除く)] ・ 植付前マルチ前、 雑草発生前 ・ 300〜500mL<70〜100L>/10a ・ 全面土壌処理 継) ・ 植付後マルチ前処理での効果、薬害の確認
15. トリフルアリン乳 トリフルアリン 44.5% [タウケミカル日本]	ニンニク	薬害 新規 (自主)	青森畑園試<中間> (1)	[薬害試験] トリフルアリン乳単用 ・ 植付後マルチ前 ①処理当日マルチング ②処理2〜3日後マルチング ・ 300, 600mL<100> ・ 土壌処理 トリフルアリン乳とリニロン水和の混用 ・ 植付後マルチ前 ①処理当日マルチング ②処理2〜3日後マルチング ・ トリフルアリン300mL+リニロン150g <100> ・ 土壌処理	実・ 継 (実の内容は従来どおり)	実) [一年生雑草(アブラナ科、キ科、カタギ科、ワヅカサを除く)] ・ 植付前 マルチ前、 雑草発生前 ・ 300mL<100L>/10a ・ 全面土壌処理 ・ 植付後、春期中耕後 ・ 300mL<100L>/10a ・ 全面土壌処理 継) ・ 植付後マルチ前処理での効果、薬害の確認

B. H20年度春夏作分野菜関係除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
1. ALZ-0642液 ヨウ化メチル:19.5%、 クロルピクリン:79.5% [アリス ライフサイエンス]	ホレンソク	適用性 新規	山形農研農生技 (1)	[一年生雑草] ・ 播種前 雑草生育前 ・ 10, 15, 20L ・ 土壌くん蒸処理 対) クロルピクリン液30L (3.0mL/穴) 処理方法 7日間くん蒸後、被覆を除去し、 7日後を目安に耕起、さらにその後3日以上放置し定植する。	一	・ 前回の判定どおり(継)
2. BAS-656乳 ジメナミトP:64% [BASFアグロ]	ブロッコリー	適用性 継続	福岡農総試 (1)	[一年生雑草(タデ科、アカサ科、アブラナ科を除く)] ・ 定植後 雑草発生前 ・ 50, 60, 70mL<100L> ・ 土壌処理 対) アグロマックス水和 250g<100L>	一	・ 前回の判定どおり(実)

B. H20年度春夏作分野菜関係除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草:ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
3. HCW-2017ロアフル DCMU:50% [保土谷化学工業]	ヤマノイモ	作用性 新規	青森畑園試 (1)	[一年生雑草] ・ ①植付直後 雑草発生前 ・ ②植付後萌芽前 ・ 雑草発生始期(3葉期以内) ・ 100, 200mL<100L> ・ 茎葉兼土壌処理 ・ 展着剤加用	—	・ 前回の判定どおり(継)
	ヤマノイモ	適用性 新規	三重農研 (1)	[一年生雑草] ・ 植付後萌芽前、 ・ 雑草発生始期(イネ科雑草3葉期 ・ 以内) ・ 100, 150, 200mL<100L> ・ 茎葉兼土壌処理 ・ 展着剤加用 対)ロックス水和剤 100g<100L>		
4. NC-622液 グリホサートカリウム塩:48% [日産化学工業]	ダイコン	適用性 新規	和歌山農大 (1)	[一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 200mL<25, 100L>, 500mL<25L> ・ 畦間茎葉処理 ・ 展着剤不要	—	・ 前回の判定どおり(継)
	ダイコン	薬害 新規	和歌山農大 (1)	[倍量薬害] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 500, 1000mL<25L> ・ 畦間茎葉処理 ・ 展着剤不要		
	ヤマノイモ	適用性 継続	三重農研 (1)	[一年生雑草] ・ 耕起または植付前 ・ 雑草生育期(草丈30cm以下) ・ 200mL<25, 100L>, 500mL<25L> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 対)ラウンドアップ 250mL<25L>	—	・ 前回の判定どおり(継)
	クラナキ	適用性 新規	山形最上産地研 徳島農研中山間 (2)	[一年生雑草] ・ 穂木採取前(クラナキ生育期) ・ 雑草生育期(草丈30cm以下) ・ 200mL<25, 100L>, 400mL<25L> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 対)ラウンドアップ ハイポード液 500mL<25L>		
	クラナキ	薬害 新規	山形最上産地研 徳島農研中山間 (2)	[倍量薬害] ・ 穂木採取3日前(クラナキ生育期) ・ 雑草生育期 ・ 400, 800mL<25L> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要		

B. H20年度春夏作分野菜関係除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
5. TMZ-9911液 有効成分:99% [アリスト ライフサイエンス]	ミョウガ	適用性 継続	山形農研農生技 (1)	[一年生雑草] ・ 植付前 雑草生育前 ・ 10, 15, 20kg ・ 土壌くん蒸処理 対)クロビトリン液 30L(3mL/穴) 処理方法) 被覆資材下に設置→くん蒸処理 (密閉し3日間放置)→被覆除去→ 7日後を目安に耕起(3日間放置) →定植	—	・ 前回の判定どおり(実・継)
6. ZK-122液 グリホサートナトリウム塩:44.7% [シンジエント シンヤパン]	ヤマノイモ	適用性 継続	青森畑園試 三重農研 (2)	[一年生雑草] ・ 植付又は耕起前 雑草生育期(草丈30cm以下) ・ 250mL<25, 50, 100L>, 500mL<25L> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 対)ラクトアップハイポート液 250mL<50L>	—	・ 前回の判定どおり(実)
	ヤマノイモ	薬害 継続	青森畑園試 三重農研 (2)	[倍量薬害] ・ ①植付直前 ②植付3日前 ・ 500, 1000mL<25L> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 ・		
7. AH-01液 グリホサートナトリウム塩 :11.5% [明治製菓, 北興化学 工業]	ピーマン	適用性 新規 (H18)	南九州大学 (1)	[一年生雑草] ・ 耕起または定植前 雑草生育期(草丈30cm以下) ・ 300mL<100, 150L>, 500mL<100L> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 対)バスタ液 300mL<100L>	—	・ 前回の判定どおり(継)
	ピーマン	適用性 新規 (H18)	南九州大学 (1)	[一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 300mL<100, 150L>, 500mL<100L> ・ 畦間茎葉処理 ・ 展着剤不要 対)バスタ液 300mL<100L>	実 実)	[春夏作;一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 畦間茎葉処理 ・ 300~500mL<100~150L>/10a 注) ・ 雑草の草丈 30cm 以下で散布す る。 ・ 作物に飛散しないように散布す る。

C. 花き関係除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
1. FUIN-2粉粒 メゾメット 98% [アグロカネソウ]	チューリップ	適用性 継続	新潟農総園研 植調研究所 南九州大学 (3)	[一年生雑草、多年生広葉雑草、スギナ] ・ 播種または定植前 ・ 30, 60kg ・ 土壌混和处理 処理方法) ・ 本剤散布→深さ15～25cmの土 壤と十分混和→ビニール等で被覆 (7～14日間)→被覆除去→2 回以上耕起(ガス抜き)→播種 または定植	実 ・ 継	実) ・ [秋冬作(チューリップ);一年生雑草] ・ 植付21日以前 20～60kg/10a 土壌混和处理 注) ・ 深さ15～25cmに土壌と十分混和 後ビニール被覆、7～14日後被覆 を除去して少なくとも2回以上 の耕起によるガス抜きを行う 継) ・ ガス抜き直後定植での薬害につ いて
2. TMZ-9911液 ヨリ化メチル 99% [アリスタ ライフサイエンス]	パンジー	適用性 新規	東京農大 (1)	[一年生雑草] ・ 床土ポット詰め前 ・ 125, 250, 500g/m ³ ・ 盛り土(1m ³): 1.3m×1.3m×高さ0.6m ・ 土壌くん蒸処理 処理方法) ① 雑草種子を含む土壌を試験設 計どおり盛り土後、上面の中心 点に薬剤を設置する。 ② 盛り土全体を農ビなどで被覆 し処理を行う。 ③ 3日間くん蒸後被覆を除去し、7 日後を目安に攪拌し、さらに3 日以上放置する。	継	継) ・ 効果、薬害の確認

D. H20年度春夏作分花き関係除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
1. AH-01液 グリホサートナトリウム塩 :11.5% [明治製菓, 北興化学 工業]	カーネーション	適用性 継続	長崎総農試 (1)	[一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 ・ 300mL<100, 150L> 500mL<100L> ・ 畦間茎葉処理 ・ 展着剤不要 対)ハースタ液 300mL<100L>	—	・ 前回の判定どおり(実)
2. Hoe-866液 グリホサート18.5% [ハイエール クロップサイエ ンス]	カーネーション	適用性 継続	茨城農総研 (1)	[一年生雑草] ・ 雑草生育期(草丈20cm以下) ・ 300mL<100, 150L>, 500mL<100L> ・ 畦間茎葉処理	実	実) [春夏作(花き);一年生雑草] ・ 生育期 雑草生育期 畦間茎葉処理 300~500mL <100~150L>/10a 注) ・ 雑草の草丈20cm以下で散布す る。 ・ 作物に飛散しないように散布す る。 ・ 試験された花き: キリ、リンドウ、ストック、ユリ、カーネーション
3. NC-622液 グリホサートカリウム塩:48% [日産化学工業]	カーネーション	適用性 新規	茨城農総研 広島農技 長崎総農試 (3)	[一年生雑草、多年生雑草(スギナを 除く)] ・ 耕起前 雑草生育期(草丈30cm以下) ・ 200mL<25, 100L> 500mL<25L> ・ 茎葉処理	—	・ 前回の判定どおり(継)
	カーネーション	薬害 新規	広島農技 長崎総農試 (2)	[倍量薬害] ・ 耕起直前 ・ 500, 1000mL<25L> ・ 土壌処理		
	キク	適用性 新規	奈良農技 (1)	[一年生雑草、多年生雑草(スギナを 除く)] ・ 耕起前 雑草生育期(草丈30cm以下) ・ 200mL<25, 100L> 500mL<25L> ・ 茎葉処理	—	・ 前回の判定どおり(継)
	キク	薬害 新規	奈良農技 (1)	[倍量薬害] ・ 耕起直前 ・ 500, 1000mL<25L> ・ 土壌処理		

D. H20年度春夏作分花き関係除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
4. TMZ-9911液 ヨウ化メチル:99% [アリスタ ライフサイエンス]	カーネーション	適用性 継続	茨城農総研 (1)	[一年生雑草] ・ 定植前 雑草発生前 ・ 10, 15, 20kg ・ 土壌くん蒸処理 対)ケルビクリン液 30L(3mL/穴) 処理方法) 被覆資材下に設置→くん蒸処理 (密閉し3日間放置)→被覆除去→ 7日後を目安に耕起(3日間放置) →定植	実・継 (従来どおり)	実) [春夏作(キ、カーネーション);一年生 雑草] ・ 定植前 雑草発生前 ・ 土壌くん蒸処理 ・ 20kg 注) 薬剤容器を被覆資材下に設置 し燻蒸処理後3日間密閉、放置 する。処理4日後に被覆除去し、 除去後7日を目安に耕起する。 耕起4日後に定植する 継) ・ 15kg処理での効果の確認
	ベチューア	適用性 新規	山形置賜産地研 (1)	[一年生雑草] ・ 床土ポット詰め前 ・ 125, 250, 500g/m ³ ・ 盛り土(1m ³); 1.3m×1.3m×高さ0.6m ・ 土壌くん蒸処理 処理方法) ①雑草種子を含む土壌を試験設 計どおり盛り土後、上面の中心 点に薬剤を設置する。 ②盛り土全体を農ビなどで被覆 し処理を行う。 ③3日間くん蒸後被覆を除去し、7 日後を目安に攪拌し、さらに3 日以上放置する。	一	・ 前回の判定どおり(継)

E. 花き関係生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
1. CX-10液 シアナミト 10% [日本カーバート工業]	サクラ	適用性 継続	植調研究所 静岡伊豆 三重農研鈴鹿 (3)	[休眠打破による開花促進、発芽促進] ・ 休眠覚醒期(11~2月の間に2時期) ・ 10, 15倍希釈(十分量) ・ 立木全面散布	実	実) [<u>(サクラ)</u>]; 休眠打破による開花促進 ・ 休眠覚醒期 ・ 10~15倍希釈(十分量) ・ 立木全面散布
2. DAZ-85顆粒水和 タミジット 85% [ファインテックロケミカルズ エルティエーイ]	キク (切花)	適用性 継続	福岡農総試 鹿児島農総試 (2)	[茎葉の伸長抑制による徒長防止] ・ ①生育期1回 ②生育期4回 ③生育期1回→花首2回 ④生育期4回→花首2回 ・ 500, 1000, 1500倍希釈 ・ 茎葉処理; 十分量 ・ 生育期4回→花首2回 ・ 250倍希釈(倍量薬害) ・ 茎葉処理; 十分量 ・ ①生育期1回 ②生育期4回 (③生育期1回→花首2回) (④生育期4回→花首2回) ・ 2000, 4000倍希釈 ・ 茎葉処理; 十分量	実・ 継	実) [<u>(キク)</u>]; 節間伸長抑制 ・ 生育期(定植~発蕾前) 4回以内 ・ 1000~1500倍希釈(十分量) ・ 茎葉処理 (茎葉の先端部に散布) 継) ・ 500倍、2000倍、4000倍処理での 効果、薬害の確認
3. DNK-01液 シアナミト 13% [電気化学工業]	コキヤナギ	適用性 継続	福島農総試 (1)	[休眠打破による発芽促進] ・ 休眠覚醒期(促成開始前) ・ 15, 30倍 株全面散布(十分量)	実・ 継	実) [<u>(コキヤナギ)</u>]; 休眠打破による開花促進 ・ 休眠覚醒期(促成開始時) ・ 30倍 ・ 切枝全面散布(十分量)、 切枝全体を浸漬(15分以内)、 <u>掘りあげ後株全面散布</u> (十分量) 継) ・ 15倍処理での効果、薬害について (切枝処理、掘りあげ後株全面散布)
4. NGR-081水溶 イゾナフオラン 0.01% [日本農薬]	キク	適用性 新規	愛知東三河 福岡農総試 沖縄農研 (3)	[発根促進] ・ 定植前 ①挿し穂基部浸漬(10, 50mL/1L) ②挿し穂全体浸漬(1, 5mL/1L) 対)オキベリン液 慣行量	継	継) ・ 効果、薬害の確認

E. 花き関係生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
5. ダミジット® 水溶 ダミジット® 80% [日本曹達]	キク (切花)	適用性 継続	広島農技 福岡農総試 沖縄農研 (3)	[節間伸長抑制] ・ ①定植～発蕾前 1回 ②定植～発蕾前 4回 ③定植～発蕾前 4回 →発蕾期～摘蕾期 2回 ・ 2000, 4000, 5000倍希釈 (散布量50～150L/10aの範囲で 十分量) ・ 茎葉処理	実 ・ 継	実) [キク]; 節間伸長抑制] ・ 生育期(定植～発蕾前) 4回以内 ・ 500～5000倍希釈(十分量) ・ 茎葉処理 (茎葉の先端部に散布) 注) ・ 高濃度処理や、処理回数が多い と、収穫時期遅延や花品質の低下を生じることがある。 継) ・ 低濃度処理における年次変動の 確認
	キク (切花)	適用性 継続	福岡農総試 鹿児島農総試 (2)	[節間伸長抑制] ・ ①定植～発蕾前 1回 ②定植～発蕾前 4回 ③定植～発蕾前 4回 →発蕾期～摘蕾期 2回 ・ 500, 1000, 1500倍希釈 (散布量50～150L/10aの範囲で 十分量) ・ 茎葉処理		
6. シベリン® 水溶 シベリン® 3.1% [協和発酵工業]	サクラ	適用性 継続 (自主)	山形農研農生技 山形置賜産地研 (2)	[休眠打破による開花促進] ・ 休眠期～休眠覚醒期 ・ 25, 50, 100ppm ・ ①切枝全面散布(十分量), ②切枝全体浸漬(20秒程度)	実	実) [サクラ]; 休眠打破による開花促進] ・ 休眠覚醒期 ・ 25～50ppm ・ 切り枝全面散布(十分量) 切り枝全体浸漬(20秒程度)

F. H20年度春夏作分花き関係生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
1. NGR-081水溶液 イブ® 0.01% [日本農薬]	キク	適用性 新規	沖縄農研 (1)	[発根促進] ・ 定植前 ③挿し穂基部浸漬(10, 50mL/1L) ④挿し穂全体浸漬(1, 5mL/1L) ・ 対)オキシエチレン液 慣行量	一	・ 前回の判定どおり(継)
2. NPK-063粒 フルルグ® リミットール® 1% [日本農薬]	花木 (クロカネモチ)	適用性 継続	東日本G研 (1)	[新梢伸長抑制による剪定軽減] ・ 萌芽2週間前または新梢伸長開始2週間前 ・ 10, 20, 30kg ・ 土壌混和处理	一	・ 前回の判定どおり(実・継)

F. H20年度春夏作分花き関係生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草:ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
3. グミゾット®水溶 グミゾット®:80% [日本曹達]	アザレ	適用性 新規	山形農研農生技 新潟農総園研 福岡果樹苗木 (3)	[茎の伸長抑制] ・ 200, 400倍希釈 (散布量50~150L/10aの範囲で 十分量) ・ ①摘芯後 1回 (摘芯約1ヶ月後) ②摘芯後 2回 (2回目は1回目の約1ヶ月後) ③摘芯後 3回 (3回目は2回目の1-2ヶ月後) ・ 茎葉処理	継	・ 効果、葉害の確認
	キ	適用性 継続	沖縄農研 (1)	[節間伸長抑制] ・ 500, 1000, 1500倍希釈 (散布量50~150L/10aの範囲で 十分量) ・ ①定植~発蕾前 1回 ②定植~発蕾前 4回 ③定植~発蕾前 4回 →発蕾期~摘蕾期 2回 ・ 茎葉処理	一	・ 前回の判定どおり(継)
	キ	適用性 新規	鹿児島農総研 (1)	[節間伸長抑制] ・ 2000, 4000, 5000倍希釈 (散布量50~150L/10aの範囲で 十分量) ・ ①定植~発蕾前 1回 ②定植~発蕾前 4回 ③定植~発蕾前 4回 →発蕾期~摘蕾期 2回 ・ 茎葉処理		
	ハブテン	適用性 新規	山形置賜産地研 広島農技 (2)	[茎の伸長抑制] ・ 200, 400倍希釈 (散布量50~150L/10aの範囲で 十分量) ・ ①鉢上げ後 1回 (鉢上げ約1週間後) ②鉢上げ後 2回 (2回目は1回目の2-3週間後) ③鉢上げ後 4回 (3回目は2回目の約1ヶ月後、4 回目は定植3日目) ・ 茎葉処理	一	・ 前回の判定どおり(継)
	バンジー	適用性 新規	神奈川農技 (1)	[茎の伸長抑制] ・ 200, 400倍希釈 (散布量50~150L/10aの範囲で 十分量) ・ ①鉢上げ後 1回 (鉢上げ約1週間後) ②鉢上げ後 2回 (2回目は1回目の約2週間後) ③鉢上げ後 4回 (3回目は2回目の約2週間後、4 回目は3回目の2週間後) ・ 茎葉処理	一	・ 前回の判定どおり(継)